

根室の未来を考える 令和7年度子ども会議 報告書

根室市教育委員会

根室市では、子どもたちの健全な成長に向けた取組の充実を図るため、平成29年度より子ども会議を開催しています。これまでの会議の内容は以下の通りです。

年度	テーマ	備考
H29	いじめのない明るい学校づくり	
H30	いじめのない明るい学校づくり	2回開催(7・12月)
R元	いじめのない明るい学校づくり	SNSによるいじめ
R2	コロナ禍でのいじめ根絶	コロナのため各学校で実施
R3	ジェンダー平等で明るい学校生活を考える	
R4	『平等』な社会(学校生活)について考えよう	
R5	インクルーシブな学校生活を考える	
R6	いじめをなくすための提言をつくろう	

令和元年度より根室高等学校演劇部の協力をいただき、演劇公演の内容を踏まえての子どもによる協議を実施してきました。

本年度は、昨年度に引き続き「いじめをなくすためのアイデアをつくろう」というテーマを設定し、いじめの問題を扱った根室高等学校演劇部の公演を参考にしながら、異学校のグループによる協議を通して、多様なアイデアの創出に取り組みました。

I 子ども会議の概要

1. 期 日 令和7年12月24日(水)9:50~12:00

2. 場 所 根室市総合文化開館 多目的ホール

3. 参加者 市内小・中・義務教育学校の児童会・生徒会代表37名、引率教員13名
根室高校演劇部3名、引率教員2名

4. テーマ いじめをなくすためのアイデアをつくろう

5. 日 程 9:50~ 9:55 開会式
9:55~10:15 根室高等学校演劇部公演
10:15~11:20 グループ協議

① 協議1(課題把握)

「いじめがよくないことは、みんながわかっている。
でも、なぜなくなるのだろうか。」

② 協議2(課題を解決するためのアイデア作成)

「いじめのない学校にするためにアイデアを考えよう」

11:20～11:50 各グループのアイデアを発表

11:50～12:00 ふりかえりとまとめ

II 根室高等学校演劇部公演

I 演目

「現実<リアル>桃ごっこ」

2 演劇の内容について

- (1) 昔話の「桃太郎」を現代風にアレンジし、他の昔話を使ってそれぞれの主人公の「悪」の行動を示し「鬼」であること、それを懲らしめる自分たちは「正義」だと意識させる。(自分は正しくて他は間違っていると思わせる)
- (2) 「鬼」と言いながら一人暮らしの婆さんを縛り上げて強盗しようとする。これはおかしいと思ったキジは消え、サルとイヌもやめようとするが、桃太郎に秘密を握られ脅されて逃げることができず実行してしまう。(闇バイトの現実を意識させる)
- (3) その後、葛藤が生まれ、正義のためならとって人を騙したり傷つけたりすることは間違いであることに気づく。正しさの押し付けは対立や戦争に発展することを。人は間違いをするもの。周りの声を受け入れ修正していくこと。(正義をふりかざして責めるのもいじめである 気づいて修正すること)

3 演劇を鑑賞した子どもたちのふり返り(抜粋)

- いじめや押し付けられたときは自分が思ったことを積極的に言うことが大切だということがわかりました。悪いものには乗らないようにしたいと思います。自分らしくしていじめがなくなるように祈ります。
- 自分が傷ついたり、相手が傷ついてしまうことがあったりするから、自分は絶対に正義とは思いません。行動する。
親の影響もあるけど、自分は自分で正しいと思ったことをする。間違っていると思ったことはしない。劇を見て、人に流されないことが大切だということなど、いろいろなことが伝わり、今後に生かそうと思いました。
- 誰かの“正義”は見方を変えれば誰かの“悪”になるということがわかりました。
たとえ自分が悪でもそれを自覚し、反省したりして切りかえることが大事だなと思いました。他人事って考えるんじゃなく、自分事だと考えることができました。
- 根室高校の演劇を見て、自分の価値観を相手に押しつけると、相手が嫌な思いをしてしまうことがわかった。人はまちがえてしまうことがあるけど、まちがったことをそのままにしてはいけないことがわかった。素晴らしい劇でした。
- おもしろく表現しつつも、今回のテーマに合っていて、みんなが知っている昔話に例えてやっていたことがすごく良かったと思います。最後の方は本当にある話というのがよくわかりました。僕的にいじめで犬が本音を言えないところが確かにと思いました。また、一人にとって正義でも、もう一人から見たらそれは悪になるという正義の基準なども表現されていてすごいと思いました。見ていて楽しかったです。

- 怪しいことには手を出さない方がいい。自分の意見を相手に流されず、はっきり伝えることが大事だと思いました。
- 現実味があり、自分がすべてだ、自分が正しいとは限らない、まわりの人達が正しいとも限らない。人と人がきちんと向き合っていくことが大切だと感じました。すごい劇だと思いました。



Ⅲ グループ協議・発表・ふり返し

Ⅰ グループ協議

各校2～3名単位として、他校の子どもと6名程度のグループを編成しました。

まず、緊張を解きほぐすアイスブレイクを兼ね、協議用長机や筆記用具等をグループのメンバーで準備しました(グループの設定場所も自由)。

その後、協議1(課題把握)「いじめがよくないことは、みんながわかっている。でも、なぜなくなるのだろうか?」(15分程度)、協議2(提言作成)「いじめをなくすためのアイデアを考えよう」(35分程度)のテーマについて、グループごとに話し合いました。アイデアは場面を三つに分け、「自分がいじめにあったとき」「友人がいじめにあっているのを見たとき」「いじめが起これにくい学校にするために」としました。特に「やめて」と言いにくい場面や人に対してのアイデア、「やめようよ」と言いにくい場面や人に対してのアイデアを考えてもらいました。

また、協議・発表ともに、主体的・対話的な学びの場となるよう、引率教員が指導するのではなく、子どもに委ねる形式で進行しました。



2 発表

グループごとに、協議内容2のまとめを画用紙3枚に書き出し、全体の場で発表・交流しました。

- (1) 協議 I 「いじめがよくないことは、みんながわかっている。でも、なぜくならないのだろうか。」

課題に対して各グループがまとめた内容(模造紙の記述内容から)

<人に対する考え方>

●いじめる側は「楽しい」と思っているから。ダメなこととわかっているでもいじめをする人がいる。自分たちの方が立場が上だと思っていて、相手を下に見て、言い返せないと思っているから。

<いじめと気づかない・気づけない>

●からかいといじめの区別があいまい。いじめの限度がわからない。何度もやっているうちに当たり前になってしまう。どこまでがいじめかをわかっていない。自分がいじめをしていることに気づいていない。自覚がないのでやめられない。いじめの深刻さを理解していない。

<同調圧力や誤った集団思考>

●周りがやっているから周りの意見に流されて自分もやってしまう。みんなやっているから、自分もやっていたらと思うとやってしまう。集団だと気が大きくなって、周りに合わせるから。

<妬みや支配、誤った自己顕示欲>

●人をうらやましく思う人や人を自分の思った通りにしたい人がいるから。いじめている人がかっこつきたいからやっている。相手の意見が自分たちと違うので腹が立つから。

<いじめ行為を指示する存在・注意することの難しさ>

●「いじめろ」と脅されている人がいるかもしれない。いじめている人は怖いし、関わると自分も被害にあうかもしれないので関わりたくないと思うから。「やめたら」と言いにくい。

<ストレス発散のためのいじめ行為>

●ストレスを発散するためにいじめている。ストレスや不安なことを相談できず、ストレスをためてしまってそれを弱い相手にぶつけてしまうから。いじめられている人が大嫌いだから、ストレス発散もあっていじめている。

<親や家庭の問題>

●親の問題。家庭環境と自分の人間関係の悩みで他の人に当たってしまうから。今の生活に不満があり、気持ちが満たされないからいじめてしまう。

<先生の指導の問題・関係性の問題>

●先生の指導の問題。生徒が先生の指導に従わないからなくなる。いじめている人をちゃんと注意してやめさせないから。

<いじめられる側の問題>

●いじめられる側にも原因や理由がある。

(2) 協議2 「いじめをなくすためのアイデアを考えよう」

各グループの提言(発表用画用紙の記述内容)		
「やめて!」と言にくい いじめの場面のアイデア	「やめようよ」と言にくい いじめを見た時のアイデア	いじめが起こりにくい学校に するためのアイデア
<ul style="list-style-type: none"> ○大人に相談する。 ○自分の思いを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大人に相談する。 ○証拠を手に入れてから止める。 ○友達に相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談しやすい場所を作る。 ○いじめをできない環境を作る。 ○細かいルールを作る。 (例: 席を離す) ○ストレスをためない。
<ul style="list-style-type: none"> ○誰かに相談してみる。⇒先生や友達、親に助けを求める。 ○アンケートを行う。⇒その結果を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○助け合う。 ○勇気を出して止める ○アイコンタクトをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○監視カメラを設置する。 ⇒いじめが確認できたら警察官や気の強い人などに学校に来てもらう。 ○雰囲気づくり。 ⇒アンケート実施・ポスターなどで呼びかける。 何かをしたらバツゲームをする。
<ul style="list-style-type: none"> ○先生や家の人、言いやすい人に相談する。 ○だれかに見つけてもらう。 深く考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○先生に話す。(頼れる人に話す) ○注意する。(直接的ではなくても間接的に伝える) ○勇気を出す。(いじめをされるかもしれないけど、伝えることが大事。言わない後悔はしたくない。) 	<ul style="list-style-type: none"> ○けんかをして、謝って解決する。 ○困りごとをかかえこまない。 ○いじめについて話し合う機会をつくる。 ○相手がいやがることをしない。
<ul style="list-style-type: none"> ○自分が思っていることを先生に相談する。 ○大人数のときに言うのは怖いから、少人数の時に「やめて」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめられている人を助けるために、先生や上級生の人と行き、助けに行く。 ○どのようにしたら助けることができるかを考える。 ○大人数でいじめられている時などは、先生や保護者達などと話し合い、ルールなどを決める。または変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者会議を開く。 ○みんなが安心できるような雰囲気をつくる。
<ul style="list-style-type: none"> ○信用できる人や先生に相談する。 ○大きな声でさけぶ。 ○その場から急いでにげる。 ○強くなる。(パワーとメンタルを強くする) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひどくなる前に相談したり、「やめようよ」って言う人を増やしてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○レクやイベントをたくさんやったりする。 ○みんながいる場で話し合いをする。 ○個人をそんちょうする。
<ul style="list-style-type: none"> ○いじめている人が怖いなら、周りに助けをもとめる。 ○一方的に悪口を言われるなら、勇気を出して一声「やめて!」と言う。 ○クラス1人1人に居場所がある学校にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○勇気を出して声をかける。 ○いじめられている人を守る。 ○両方の人の話を聞く。(何があったかなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談窓口をつくる。 ○ポスターをたくさんつくる。 ○みんながいじめに対して関心をもつ! ○リラックスできる遊び場所などをつくる。 ○学校の友達との交流を深める。 ○素の自分を出していく。

<p><集団のとき> ○声をかける ○こっちも集団でいく <相手が先輩のとき> ○先生に言う ○同じ学年の人に言う <先生がいないとき> ○友達や親に言う</p>	<p>○先生に言う。 ○集団で言いに行く。 ○先生から伝えてもらう。</p>	<p>○相談しやすい学校にする。 ○楽しめるイベントをする。 ○先生にまわりをよく見てもらう。 ○自分が正しいと思いきまない。</p>
--	--	--



3. ふり返り

会議の最後に時間を設定し、演劇鑑賞の感想(前掲)と当日の学びについてふり返りを行いました。以下に子どものふり返りをいくつか紹介します。

- いじめられた時、またいじめられている人がいた時、自分が少し頑張ってみたり、友人、家族、先生など信用できる人に頼ってみるなど、いじめが起きたときに何をすればいいか考えることを頑張る。
- いじめは注意しただけではなくなるから、この話し合いで聞いた、自分たちができることを実行していじめがない学校を生徒会としてつくっていきたいと思いました。イベント等を通して生徒のストレスを減らす取組をしてみたいと思います。
- その時のことを想像して、この場面はどうするか、どうすることが良いかなどをみんな話して、意見を出すことができた。人それぞれ意見は違うけど、それは本当に良いことなのか話し合えた。意見を出し合うことで、より相手が思っていること、考えていることがわかるようになった。
- 色々な学校の人々と話していると自分の学校では出てこない意見が出てきて新しい発見ができた。なにより勇気をもって行動をして、発言をすることが大切だと気がついた。
- 自分たちの学校では、アンケートとかポスターとか雰囲気を作るのが大事だなと思いました。誰かに相談するっていう意見が多かったけど、その相談をする雰囲気を作るのが大事だと思ったので、自分の学校でそれをしていきたいです。
- 他のグループの話聞いて、いじめはよくないことと誘われても断る勇気が大切だということがわかった。よくないことをわかっているのに、自分から止められるようにしたいと思います。今日学んだことをいかせるようがんばりたい。
- いじめが起こってしまったときに、自分がどうするか話し合ってきたようにする。学校でやってほしいことは、いじめ教室を開いたり、レクをたくさんして交流を多

くする。また、先生たちの指導を強化してほしいと思います。

○先生たちと話し合う。みんなの意見が合うためにどのようにしたら楽しめるかを考えてみようと思った。不快に思わせないように面白い遊びなどを考えてみようと思いました。

○気持ちを強くもって先生に相談することがすごく大事だとわかりました。

○みんなでいじめについて自分とは考え方が違う方もいたので、「へ～そういう対策の仕方もあるなあ～」と思いました。

○みんなと仲良く遊ぶこと。ちゃんと人のことを考えた発言態度を取る。みんながみんな仲がいいわけじゃないから、みんなで考える学びの会を設定する。

IV まとめ

本市では、障がいのみならず、人種の別や男女差、性についての指向性、学習の進め方やペースの違いなどを一人ひとりの個性と価値観として認め、自分らしくあるための選択や決定を尊重するインクルーシブ教育を推進しています。いじめの根絶に向けた取組も子ども一人ひとりの多様性を尊重し、すべての子どもが力を発揮できる学びを保障するインクルーシブ教育に他なりません。

今年度の子ども会議は、昨年度に引き続きいじめについて考えてもらいました。いじめのない学校づくりのためのアイデアを考えることを通して「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を持ち、子ども一人一人がいじめについて主体的に考える場を提供しました。子どもたちは、中学生・義務教育学校後期課程生がリードしながら、大人の力を借りることなく、自分たちで考え・議論して、それぞれのグループで提言を作成することができました。

また、閉会式で根室市生徒指導連絡協議会の大石副会長からいじめの発生原因「シンキングエラー」「アンバランスパワー」、「やめて」「離れる」「助けて」の「や・は・た行動」について説明がありました。これらの言葉が子ども会議の中で出てきていたことを高く評価しました。

本会議に参加した子どもたちが、学校に戻り、協議の方法も含め、主体的・対話的で深い学びを通して、いじめのない学校づくりの取組を構築していくことを期待します。

また、今年度も根室高校演劇部と連携し、会議の内容をより充実することができました。今後もこの連携を大切にしながら子ども会議のさらなる発展を目指していきたいと思えます。